

1. 主題構成表

主題名 整理・整頓

資料名 さいごになっちゃった 出典：(文溪堂)

■内容項目 A - (3) 節度, 節制 (低)健康や安全に気をつけ, ものや金銭を大切に, 身の回りを整え, わがままをしないで, 規則正しい生活をする。 (中)自分でできることは自分でやり, 安全に気をつけ, よく考えて行動し, 節度のある生活をする。	■内容項目から見た児童の実態 (意識) ・保護者や教師から整理・整頓するよう言われたら, やらなければならないということが分かっている, 取り組むことができる。 ・仲間の整頓を手伝う優しさもある。 ・面倒であったり, 他のことに気を取られたりして, 整頓できないことがある。 ■要因 ・言われたからやるという意識が高く, 整頓することの意義や良さに気付いていない。	■資料の分析 ・本資料では, 水泳の活動が大好きで何でも一番になりたい主人公が, 身の回りの整頓をせず急いでプールに移動したり, 宝拾いでは一番になりたい一心でかごに入れず, どんどん拾い散らかしたりする。そのため, 水泳後の片付けや着替えが遅くなり, 給食では最後になるだけでなく, 他人に迷惑をかけてしまう内容である。児童は, 活動に夢中になっている主人公に, 自分自身の体験を重ね合わせて心情を考えることができる。 ・主人公のかばきちくんの行動を考えることで, 一番になりたくて片付けずに移動したり, 活動したりする姿に共感することができる。 ・着替えが遅くなってしまい, みんなが待っている姿を見た主人公は, 一番になりたい思いや夢中になった結果, 整理・整頓をおろそかにしてしまい, 更に時間がかかってしまうだけでなく, 周りの仲間にも迷惑をかけてしまったことに気付く。身の回りの整理・整頓ができなかった自分を反省し, 大切さに気付くのである。
■価値の分析 ・「整理・整頓」は, 自他が気持ちよく, 充実した生活を送る上で欠くことのできないものである。 ・特別支援学級では, 学校生活ですべての活動において整理・整頓する機会があり, 一つ一つ見届ける必要がある。 ・児童は, 整理・整頓しなければならないと理解している。しかし, 整理・整頓することが, 環境が整っているという良さを理解していなかったり, 自分だけでなく, 他人も物の場所が明確になり, 後で使用の際すぐに取り出し, 使用できる良さに気付いていなかったりする。そこで, 活動の後に自ら進んで身の回りを整理・整頓できるよう指導していきたい。また, 整理・整頓することで, 自他共に物の場所が明確になり, 気持ちよく生活できることに気付かせたい。		
■ねらい 身の回りを整えたり片付けたりすることが自他にとって充実した生活になることに気づき, 身の回りの整頓をする心情を育てる。		
■他の教育活動との関連 ■事前 生活単元 お茶を作ろう 茶葉を蒸したり揉んだりする活動には積極的に関わるものの 準備や後片付けなどでは, 自ら進んで行おうとすることができない。 ■本時 「さいごになっちゃった」 ■事後 体育 水泳 自分の服をたたんだり, 遊んだ道具を自ら進んで片付けたりすることで, 自他共に気持ちよく生活できることを伝えていく。		
■「私たちの道徳」の活用(授業前・授業中・授業後・活用しない) (活用の仕方)		

2. 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	日常生活において、整理・整頓ができているか話し合う。 ・ロッカーや引き出し ・規定服やジャージ ・トイレのスリッパや下足箱の靴 ・おもちゃや工作で使用する道具	・各場面の写真を見ることで、自分が身の回りの整頓ができているか明確にする。 ・自らの整理・整頓の様子を振り返ることで、価値への方向付けをする。
展開 前段	絵話を聞き、主人公の気持ちや行動について話し合う。 ○感想を発表しましょう。 （主人公のよいところや残念だと思うところ） ・かばきちくんが、シャツやくつをポイッとしているところが良くない。ちゃんと片付けないといけないと思う。 ・かばきちくんは、宝拾いで約束を守らずにやっているのはよくない。 ・散らかした宝をかごに入れて片付けているのでよいと思う。 ○服をたたまずに走っていったり、靴をそのままにしてプールサイドに行ったりしたとき、どんな気持ちだったでしょう。 ・水泳早くやりたいな。 ・一番に行くんだ。 ・早くしなきゃ。急げ。 ○かばきちくんは、どうして着替えが遅くなったのでしょうか。 ・服をたたまずにプールに行ったから。 ・宝をかごに入れなかったから。 ・片付けに時間がかかったから。 待っているみんなを見て、着替えているかばきちくんは、どんな気持ちになったでしょう。 ・急がなくなっちゃ。 ・みんなを待たせている。ごめんなさい。 ・着替えをきちんとたたんだり、宝をかごにいれたりしておけばよかった。 深めの発問 ○片付けなくても、困るのはかばきちくんだけだよね。 ・きちんと整頓することは大事だと思う。整頓すると、早く着替えることができるし、みんなに迷惑がかからない。 ・片付けた方がきれいで気持ちがいい。 ・みんなが嫌な気持ちになっているからよくない。	・主人公は「かばきちくん」であり、かばきちくんの気持ちを考えていくことを押さえる。 場面の様子をとらえやすいように、紙芝居形式にし、場面絵を提示する。 ・意図的指名をすることで、全員が参加できるようにする。 ・楽しい活動であること、いつも一番になりたいと思うかばきちくんの心情を押さえる。 周りの話や教師の設問をつなげるために、児童の話や教師がおうむ返ししたり、日常生活や話したこととつなげたりする。 ・遅くなった原因をより明確にするため、かばきちくんの整理・整頓に関する行動を整理する。 児童一人がかばきちくん役、他の児童が待つ児童の役になり、待たせている心情に気付くようにする。 ・深めの発問をすることにより、片付けないことで他人にも迷惑がかかることが分かり、きちんと身の回りの整頓をする大切さに気付く。 身の回りを整頓することで、自他にとって充実した生活になることに気付く。 （認識力）
展開 後段	自分の生活を振り返る。 ○かばきちくんは、どこに気をつければ楽しい給食になったでしょう。 ・着替えをきちんとたたんでいく。 ・靴を靴箱に入れる。 ・宝をかごの中に入れる。 整頓されていない写真を見ることで、これからどうしたらよいか考え、身の回りの整頓や掃除をする。 ○引き出しやロッカー、おもちゃ、トイレのスリッパなど、身の回りを整頓する。	・かばきちくんの行動から、自分がよりよい生活を送るためにはどうしたらよいか考え、明確にする。 一生懸命整頓や掃除をすることで、前と比べて美しくなったことを、実感を伴って気付けるようにする。
終 末	教師の説話を聞く。 ○日頃整頓できている児童について紹介し、良さを広げる。	・おもちゃやトイレのスリッパなど、他の児童も使うものまできちんと整頓できることで、よりよい生活になることを紹介する。

人権教育の観点

どの子どもでもできる状況を生み出すための配慮